

No. 103 2019. 12. 1

〒421-0522
静岡県牧之原市相良 240-1
(児童発達支援・放課後等
デイサービス)
つくしの家
(生活介護事業所)
つくしホーム
☎ 0548-52-2225
事務局 52-0825
F A X 52-1156
e-mail:tsukushihome@
aloros.ocn.ne.jp

つくしの家だより

HP アドレス <http://ichiyokai.sakura.ne.jp/>

思い出す風景……

栗林 均

早いもので、今年もあと一ヶ月となりました。つくしの前の海岸に出ると、駿河湾をはさんで雪の帽子を少しかぶった富士山がぼっかりと浮かんでいます。これから寒い季節を迎えます。みんなで体調に気をつけながら元気に過ごしていきたいと思えます。ホールの中からは、子ども達が歌うクリスマスうたが聞こえてきました。

昨年一月、新年が始まって少し経った日の昼休み、玄関から「こんにちは」という声が聞こえました。そこには、十七年前に卒園したSくんとお母さんが立っていました。突然の訪問でした。Sくんは、二十四歳。身長もすっかり私を超えています。



す。玄関であいさつをし、「どうぞ、上がって下さい」と声をかけると、靴を脱いでホールに上がってくれました。お母さんが「朝、急につくしの朝のうたを歌い出して、つくしに行きたいって言ったんです。突然ですが来てしまいました。いつもは、家にいる時はジャージですが、つくしに行くと言って自分からどんどん着替えたんです。」とお話ししてくれました。小さなお友達はちようどお昼寝をしている時間でした。Sくんは、ゆっくり歩きながら懐かしそうにホールの中を見ていました。毎朝バッグを入れたロッカー、壁に貼ってある作品…、畳のコナーの柱にあの頃のままの「朝の歌」の歌詞が貼ってあります。Sくんに「朝のうた、一緒に歌ったっけね」と言うと、にこっと笑ってくれました。お母さんとお話をしている間、おままとコナーの所にあるソファーに座っていました。Sくんは、こぐま教室から幼稚園に通った後、四歳でつくしに入園しました。小学部一年生までつくしで過ごし、地元の小学校の支援学級へ進んで行きました。ソファーに座ってこちらを向

いているSくんを見ながら、あの頃の風景が、ふっと重なって浮かんできました。しばらくすると、Sくんは急に立ち上がり玄関に向かい、靴を履き始めました。「もういいの？帰るの？」声をかけました。お母さんも慌てて後ろをついて行きました。Sくんは、何を思い出したのでしょうか。今はこんなに大きくなったSくんにとって、あの頃のつくしはどんな場所だったのでしょうか…。表の道を曲がって行く車を見送りながら、ふとそんなことを思いました。……Sくんが卒園する時にお母さんが書いて下さった文章を読み返してみました。『だいぶ暖かくなってきた今日この頃、こんな日は初めてつくしに訪れた日のことを思い出します。天井の窓から、やわらかい日差しが入り、とても広々とした空間。心の中がほんわかとして、いいなと思ったこと。午後の活動のライト訓練に参加させていただき、暗くてちよびり怖いけど、それ以上に楽しくて目を輝かせている息子を見て、ここに入れてもらいたいと強く感じました。一年間親子でのこぐま教室に通わせていただき、どうしようか迷った末、地元の幼稚園に入園することにしました。が、結局一年だけ通園し、今度はつくしの家に入園させていただくことにしました。目を追うごとに成長していく息子を見て、遠くから通うことが、全く苦ではな

くなり、やっぱりつくしに来てよかったですと心から思いました。随分成長したとはいえ、まだまだ課題はたくさんありますが、それは新しい場所（小学校）で、がんばっていきましょうと思います。皆さんに会えたことは、息子にとっても私にとっても、大きなタカラモノです。『…、まだまだ小さかったSくん、次の道に歩き出すとする時にお母さんが書いて下さった文章でした。』



ちょうどその年、十七年前の二月の園のお便りで紹介させていただいた文章です。『永六輔さんが「学校ごっこ」という本の中に、女優の岸田今日子さんの子どもの頃のことを書いてある文章があります。岸田さんは、小さい頃は学校になかなか行けない子どもでした。何度か行ってはみるものの、すぐに帰って来てしまいます。教育家でもあったお父さんは、行きたくないなら行かなくていい、学校なんか行かなくていい

なんとなかなる、そんな考えの人でした。でもお母さんは、いやだったら帰って来てほしいから、とにかく行ってほしいと願っていました。「夏休みが終わったら、みんなも久しぶりに学校に来るから、あなたもその時行けばいいわ。毎日学校が続く中で、行ったり行かなかったりではなくて、夏休みが終わった時に学校へ行ってみなさい、いやだったら帰って来ていいから。行くだけは行ってください」と。今日子ちゃんは、お母さんがあんまり言うので「いやだったらすぐに帰ろう」と思いつつ学校に行きました。教室にみんなが集まった時、先生がこう言いました。「はい、どうでしたか、夏休みは、楽しかったですか、宿題を出しましたか」今日子ちゃんは困りました。宿題を持ってきてないだけではない、それどころか家にも持って帰らず、机の中に入れたままだったのです。今日子ちゃんは考えて、それを持って家に帰っちゃおうと思いい、そーっと教室を出ようと思しました。すると先生が呼び止めました。「今日子ちゃん、ちょっとおいで。その日記帳を持ってらっしゃい」仕方なく、今日子ちゃんは何も書いてない絵日記帳を先生に出しました。先生はそれをパラパラとめくって言いました。「よかったですね。今日子ちゃん。毎日楽しくて、日記をつける暇がないくらい楽しい夏休みだった

子ども達は、その心の中の思いを、日々様々な表情や表現で私達に伝えてくれます。振り返ると、時にはマイナスに思えることや、ビシッと伝えた方がいいなど、つい思ってしまうような場面にもたくさん出会ったような気がします。でも精一杯の表現のそのひとつひとつが、もしかしたらプラスに変身できる、とっても素敵な宝物なのかもしれない、そんな気がします。——やがて今日子ちゃんは、数十年ぶりに同窓会でその先生にお会いして、そのことを話してみたいそうです。「先生は、何も書いてない日記帳に、全部丸をつけて下さいました。あの時、学校に来ようと思いましたが、本当にあの時の



んだね。本当によかった。」そう言いながら、先生は一ページ一ページ全部に丸をつけていきました。今日子ちゃんは先生を見ました。そして「明日から来よう、この先生のとこに来よう」そう思ったんだそうです。『…、そんな素敵な文章でした。』

先生は素敵でした」と。先生もそのことはよく覚えていて、こう言ったとのこと。『えっ、あれは丸じやないんだよ、零点だったのよ。』つい笑ってしまうような答えが返ってきたとのこと。でもそこには私達も大切にしなければいけない何かがあるような気がしてなりません。そして、それが女優の岸田今日子さんを作ったのかも知れないのです。つい投げかけてしまう言葉、心の中でぐつとこらえて言わなかった言葉…、それが「零」にも「素敵なお丸」にもなるんですね。そんなことを思いながら、みんなが一日一日を元気に過ごして行きたいな、そんなことを感じました。…十七年前に、つくしのお便りに書いた文章でした。

平成から令和へと移ったこの一年も、残り少なくなってきました。子ども達との日々、どんな言葉を伝え、どんな風景を一緒に作ってこれたのでしょうか。そしてこれからどんな歩みを私達は続けて行くのでしょうか。ふとそんなことを思い出しました。あの頃も、そして今も、毎朝みんなの手をつないで歌っている朝のうた、それがSくんの心の中に、ふつと浮かんだ風景なのかもしれませぬ。

今年もみんなであたたかなクリスマスが迎えられますように…。

(二羊会理事長・つくしの家園長)

共に歩む時間の大切さ

増田 隆

十月に行われたつくし合同運動会も終わり、利用者さん達は年末に行うクリスマス会の準備や、今年一年間お世話になった方々への手作りカレンダーの製作・配布に、それぞれのペースで取り組んでいます。

今年こそ平穏な年でありますように、との願いもかなわず、大型台風により多くの被害がありました。幸いつくしホームに被害はありませんでしたが、市内では浸水も起こり、改めて自然の脅威を感じました。朝目覚めて夜には眠りにつく：そんな当たり前に思えることが、実は一番感謝すべきことだと改めて思います。

小首をかきあげ、両手のひらを優しく合わせながらゆっくりと歩く和也さんは、今から約十五年前につくしホームに入園しました。大勢の人や環境に馴染めないこともありましたが、ここ数年間は大好きな音楽をかけて欲しい、好きな教材を出して欲しいと、自らの思いを相手の目を見て伝えることが日常となりました。誰からも「かーくん、かずくん」と声を掛けられ、笑顔で答えてくれま

した。通りすぎる人と軽くタッチをしながらモップ掛けや片付けも自らい、周りの世界を少しずつ広げ、休むことなく通ってくれた和也さんでしたが、九月末、突然ご逝去なさいました。大好きだったソファアーク空になっていく光景は悲しみを募らせ、いまだ信じられませんが、これまで伝えてくれたたくさんの思いと笑顔、私たちは永遠に忘れません。いろいろな事を教えてくれ、辛いことも楽しいことも一緒に過ごすことができた日々から感謝し、つくしホームになくてはならない仲間として、今までも、これからもずっと共にあると思っています。



十五年前の四月、和也さんが入園した日は、どうしても建物の中に入ることができませんでした。式にはお母さんだけが出席し、車からやつと降りた和也さんに職員が付き添いました。そのうち式は終わってしまいました。少しづつ、少しずつ和也さんの足はホールに向かい、ようやく玄関に入ったのは昼近くでした。その時、ちょうど新年度の説明会を終え、別棟から来た保護者の方々が入ってきました。そして何人もの方々が、「〇〇君、がんばったね」、「よくここまで来たね」と、次々と声をかけてくれました。いつもとは違う環境、雰囲気を感じ、人一倍感受性の強い彼がようやく歩いた歩数は僅か、距離にすれば数メートルですが、その一歩一歩は彼にしてみれば数百メートルの重みがあったのだらうと思います。

つくしホームでは、特別支援学校高等部から実習生を受け入れていきます。その中にも、和也さんと同じように、初めての場所や会う人には、とても緊張してしまう生徒もいます。学校の先生も車から降りる事が出来るだろうか、建物に入れるのだろうか、と心配します。なかなか外に出られない人もいれば、その思いをよそに初日から笑顔で玄関をくぐり、ホームに入る事が出来る人もいます。面談では、将来についての心配や不

安を訴える方もいらっしゃいます。これまで育ち、育ってきた中で、周りには計り知れない思いがあることと思います。しかし、学校生活や自宅での様子とは違った面を見せてくれることもよくある事で、環境やたくさんの人たちとのかわりの中で、生き生きとした表情や笑顔が増えてゆくことがあるのも事実です。

どんな障害があっても、誰もがその人なりの思いや願いを必ず持つています。色々な情報や先入観だけにとらわれず、ひとりひとりがこれまで歩んできた育ちや歩み、生育環境を重んじ、障害を見るのではなく、ひとりの人としての意思や人格を重んじたいと思います。中学部・高等部を卒業してからの人生は、これまでの数倍にもわたる長い時間です。お互いの価値観を認め合い、誰もがここにいていいんだ、と感じてもらえる毎日を送る事が出来ればいいなと思います。

様々な別れや出会いを経験するたび、そこに携わることの責任の重み、経験の積み重ねの大切さを、改めて感じています。

(つくしホーム 施設長)



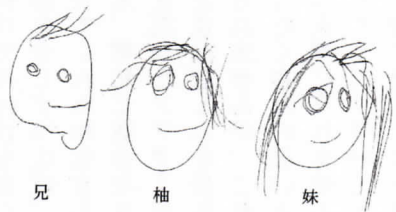
柚がいたからこそ
名波佳香

柚には3つ年の離れた兄と5つ年の離れた妹がいます。兄は柚が小さかった時は妹ができて喜んでいたのですが、少し様子の違う柚にどう接していいのか分からず、手を握って一緒にいるだけでした。柚が出来る事が増え始めた頃、プラダ・ウイリ―症候群であること、これからどう接したらいいのかを説明しました。どこまで理解できたのか分かりませんが、今までと変わりなく遊んだり、つくしへの送り迎えについてきてくれました。しかし、小学校にあがると、恥ずかしい気持ちも出てきて、つくしに行くことが減ってしまいました。ですが、中学生になり、柚がつくしを卒園してから「つくしの家でボランティアをしたい！」と言い、夏休みにつくしでのボランティアに自ら進んで応募しました。柚の影響なのか分かりませんが、将来は福祉の仕事に就くことも考えている様です。

成長してくれました。今となつては10才になる柚よりも妹の方ができることが多いですが、ライバルの妹に負けず劣らず何事にも一生懸命チャレンジしています。

妹は柚と一緒にいたり、遊んだりすることが多いです。柚が困っている時には、妹が代わりにやっけてあげたり、親の私たちや兄を呼んでくれるなど、柚のことを気にかけてくれます。お互いの意見が合わない時にはケンカをすることもありますが、お互いに助け合い、ひとつのことをやり、とても良い関係です。

子ども達は、それぞれ好きなことをやっていることも多いですが、一緒にTVを見たり、お絵かきしたり、ブロックで遊んだりする姿もよく見かけます。兄と妹は意識していないと思いますが、柚へのことを気にかけてくれています。柚には欠かすことができない存在です。逆に柚がいることで兄や妹は優しい気持ちを持つことができているのだと思います。そんな兄と妹がいたから素直でニコニコしている今の柚がいるのだと思います。



(つくしの家 卒園児保護者)

『これが生きる源』
横山 薫

『お母さんのおなかに留まっていたくれるかどうか』の言葉を耳にしてから数分後に医師は、『お子さんはお母さんにしがみついていますよ、すごいですね。でも障害は覚悟しておいて下さい』生きてさえてくれれば、と祈った娘は八カ月に入ってすぐに産まれ、一度だけ高熱で危なかつた事はありませんが、それ以外は大きな病気もせずに毎日が楽しくてたまらないという姿を沢山見せてくれて、今年で三十一歳になりました。

愛知県の岡崎養護学校(現特別支援学校)在学中に卒業後に通う施設が欲しいと親達でスタートした思いは、七年後高等部二年生の時に形になりましたが、事情があり、卒業と同時に私の実家がある御崎市で新たな生活は始まりました。

天真爛漫で何でも来いと思いきや、慣れていない所では食事を受けつけず、ショートステイでは泣き疲れて帰ってきます。

このような娘が、生まれ育った所でもなく初めて出会う集団の中で日中過ごせるのか大きな不安でした。

在学中に体験実習した所は、いざ決定かと思いきや、利用してみると全介助で対応が無理と断られたものの、じつとしてはいられず市に相談すると「つくしホーム」を紹介され、

藁にもすがる思いでハンドルを握り、門を叩くと、両手を広げて迎えてくれる姿があり、どれだけ安堵したかわかりません。

その安堵した気持ちを通じたのか、初めての場のはずなのに普段のままの娘の姿があり、園長先生にも『以前から利用されているような笑顔で過ごされました』と、嬉しい言葉をかけられました。お弁当も完食し『今日も一日頑張るぞーっ』のかけ声で毎朝つくしホームの玄関に入っていく姿や、休みの日でも「今日はつくしです」と鞆に手を伸ばそうとする姿、大好きな場であるホームに感謝でいっぱいです。

四季の行事でも毎回テンションが上がりますが、特に運動会は練習が始まると今から本番、とばかりに毎朝体育館を通り過ぎる度に「降ります。ここです」と大騒ぎです。

年に一度の車イス登山も楽しみの一つで、体重を調整しながら十三年間皆勤賞です。

つくしホーム、登山の十三間、支えてくれる環境は少しずつ変わりましたが、障害があっても力強く明るい姿に頑張る力が湧きます。

発語が難しいと言われた娘は、最近しりとりを覚え、「すいか・か・か・からす・す・す・すいか」と。明日からはもう一歩進む事が出来るかもと思う気持ち、これこそが私の生きる大きな源となっています。

(つくしホーム保護者)

ご挨拶

早いもので、今年もあと一ヶ月を残すのみとなりました。温暖化の影響でしょうか、今年も大型の台風や洪水、河川の氾濫、突風等により日本各地で大きな災害が発生しました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く復旧されますようお願い申し上げます。また夏の前から、そして秋にかけても猛暑・高温の日が続きました。熱中症をはじめ季節を問わず流行するインフルエンザや感染性の胃腸炎なども心配されます。四季を感じ、おだやかに生活できることの大切さを感じた年でもありました。

つくしの家とつくしホームは、社会福祉法人一羊会が運営をしています。法人の設立は昭和四十七年ですが、その前、昭和二十三年から相良保育園を運営していました。終戦からの復興に大人たちが向かう中、日中の子ども達を守ろうと、教会の牧師館を使って保育を始めました。立派な園舎はなくても「保育は軒先でもできる」という熱い思いで始まったと聞きます。相良保育園に知的なハンディを持ったお子さんが入園したことで、この子たちに必要な場所をと、昭和四十四年に三人の子どもと一人の保母さんでつくしの家が始

まりました。当時は世の中の福祉への理解も薄かった時代でした。その後、つくしの家に通う子ども達の年齢の幅も広がり、大人の人のための場所としてつくしホームができました。法律や制度が次々と変わって行く中で、手をつなぐ育成会で運営していたこづつみ作業所、第2こづつみ作業所、こづつみ寮、第二こづつみ寮が傘下に入り、市の指定管理の指定を受けて、あおぞら保育園が加わりました。相良保育園とつくしの家から始まった一羊会も、現在は保育園に通う0歳児さんから作業所やつくしホームに通う七十歳を超える方まで全部で三百人を超す方がそれぞれの場所に通っています。

各施設は、地域の中で皆様に見守られながら、たくさんの応援をいただいています。また、法人ということで、各施設がより良い運営ができるよう六名の理事、二名の監事、八名の評議員の皆様が運営を支えて下さっています。今年六月に開催しました定時評議員会で三名の理事の方からの退任の申し出があり承認されました。太田武様は、今年九十一歳を迎えられました。相良保育園の保護者会の初代会長をされた後、監事を二十年、理事を十八年、合わせて三十八年間という年月を一羊会のためにご尽力いただきました。松下徳男様は、合併前の町の福祉課長、社会福祉協議会の事務局長の頃から一

羊会を応援して下さり、退職後から十年間理事として勤めて下さいました。紅林清様は、つくし保護者の代表、手をつなぐ育成会、またこのつくし後援会の代表として四十年間理事としてお力をいただきましたが、病气療養中とのことで退任の申し出がありました。

昭和から平成への歩みの中で、各施設に必要な場所として、つくし東館、相良保育園のプレイルーム、つくし西館の建設、第2こづつみ作業所・こづつみ寮・第二こづつみ寮の移転建設等、一羊会としてもとても大きな施設の整備にも取り組まれました。少しずつ大きくなる法人をいつも利用者、ご家族、職員のためにお力をいただきました。心より感謝申し上げます。そして新たに三名の方が理事として加わって下さり、また私達の令和の歩みが始まりました。後援会の皆様方をはじめ、ここを応援して下さい下さる方々には、今後とも変わらぬご支援をお願いしご挨拶とさせていただきます。

取扱金融機関のご案内	
三菱UFJ銀行静岡支店 普通 4254072	
口座名 つくしの家後援会 (以下同じ)	
静岡銀行相良支店 普通 145949	
島田掛川信用金庫相良支店 (旧島田信用金庫) 普通 134511	
郵便振替 00820-5-57983	
口座名 心身障害児通園施設 つくしの家後援会	

つくしの家後援会 代表交代のお知らせ

このつくしの家後援会の代表として支えていただきました紅林清様が今年の六月末で退任され、七月より古川良朗様が代表となりました。

古川様は、つくしホーム保護者、一羊会理事、また牧之原市相良地区の民生委員もされています。つくしの家・つくしホームに通う子ども達・利用者と普段より顔を合わせてお互いに知っていることが大切と、年四回のお散歩交流や、園庭の草刈り作業もおこなって下さっています。

毎回、民生委員児童委員の障害児者福祉部会、地域福祉部会、児童福祉部会、高齢者福祉部会等の約二十名の皆様と海辺のシーサイドパークや近くを流れる萩間川添い手を手をつないだり、車イスを押していただきながらゆつくりと散策します。最近は、近くにできた津波避難タワーへのコースも加わり、緊急時の避難についても一緒に考えて下さっています。

また、つくしの家ができた時の最初の三人の園児の一人、現在つくしホームに通う照美さんの保護者でもあります。

福祉を取り巻く状況が大きく変わっている時代ですが、地域の中で、地域の皆様に見守られながら、これからもみんなで元気に歩んで行けたらと思っております。
(事務局)

つばき

◆つくしの家のあゆみ

五月 ◎日本平動物園に親子バス遠足に行きました。少し暑かったけど動物を見たり園内を散策したり、とっても楽しかったね。◎市内の仁藤様が、市のイベントで出たアルミ缶をたくさん届けて下さいました。他にも地域の方々がたくさんアルミ缶を届けて下さっています。

六月 ◎卒園して市内の就労支援事業所で働いている杉本優弥くんが、子ども達に働いたお金で今年もお菓子を買って届けて下さいました。◎父親参観会を行い、近くにある津波避難タワーに上ったり、ホールでゲームを楽しみました。◎相良保育園の子ども達が「花の日」でお花を届けてくれました。◎今年で三十七回目となる市内の結婚式場「うおとも」様から食事のご招待をいただきました。市内外の施設の皆さんとおいしい食事をいただきながら、各施設の出し物を見たり楽しい交流ができました。

七月 ◎七夕の会で、今年も卒園児の福代優介くんのお家からスイカをいただきました。◎今年も保護者学習会で、先輩のお母さん方四名に来ていただき、学校のことや経験されてこられたお話をお伺いしました。

◎阿佐ヶ谷教会の約二十名の皆さんが二泊三日のワークキャンプに来て下さり、園庭の砂場を大きくしていただいたり、植木の選定などたくさん作業をして下さいました。

八月 ◎牧之原市により玄関入口の床の張替え、コンクリート面の補修・塗装。窓のコーキング、網戸取替、ペランダの鉄骨の塗装、波板取替、雨漏り工事等の修繕をして下さいました。◎星いきいき社会福祉財団様よりかわいい玄関マットをいただきました。◎こぐま教室に山村一恵先生が加わって下さいました。◎ご家族の皆さんと「おたのしみ会」をしました。いろんなブースをまわってにぎやかな会になりました。

九月 ◎榛原地区保育連合会の園長先生達が見学研修にみえました。◎相良中学校より体育大会にご招待。生徒さんとペアになって交流種目に参加しました。◎祖父母参観会では、子ども達のダンスを見ていただいたり、一緒にゲームを楽しみました。

十月 ◎ジャンボエンチョー様よりチューリップの球根をたくさんいただきました。◎市の海浜体育館をお借りして、つくしホームとの合同運動会を行いました。



絵：しょう

◆つくしホームから

5月 ☆民生委員さんが今年度も4回散歩交流に来てくださいます。初回は橋まで散歩、さわやかな風にも心もリフレッシュできました。☆相良中学校2年生2名が職業体験学習。☆保護者の皆さんによる奉仕作業(年2回)と、食事会(年4回)。敷地内がとてきれいなになり、お腹もいっぱいになりました。

6月 ☆相良保育園の「あい組」さんが、歩いてきれいなお花を届けてくれました。☆牧之原小4年生の皆さん、萩間小4年生の皆さんとの交流会。リコーダー演奏、鳴子ソーラン等を披露してくれた後、グループに分かれて手作りゲーム等を楽しみました。☆民生委員さんと2回目の交流会。あいにくの雨でしたが、室内で輪投げや握手・肩たたきゲーム等をして交流を深めました。☆伊豆三津シーパラダイスへバス遠足。土砂降りの1日でしたが、みんなで食事したり、イルカショーや可愛い魚に癒され、楽しい時間を過ごしました。☆吉田特別支援学校高等部2・3年生が3日間実習。37回目となる「うおとも様」よりの食事会にご招待いただき、つくしホームから新郎新婦が誕生。晴れの姿にみんな感動しました。笑顔のおもてなし、美味しいお料理に感謝です。☆静岡こども福祉専門学校2年生3名実習。

7月 ☆今年も阿佐ヶ谷教会「地の塩会」の皆様と、夏祭りでお宝探し、セリすくい、カラオケなどを楽しみました。暑さの中、草刈り、砂運びなどの作業もしてくださいました。☆消防署の皆さんに来ていただき、消火訓練をしました。☆短冊に願いを書いて、七夕祭り。☆小グループでの1日外出を3回実施。昼食をとり、買い物を楽しみました。☆夏季学童クラブを8月まで実施。

編集後記

台風15号、19号の上陸による風水害、特に浸水や土砂崩れなど建物に大きな被害を受け、今なおご不便を感じられている多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。これからは寒い季節を迎えます。皆様どうぞお身体を大切に過ごしてください。

8月 ☆玉川学園高等部の皆さん来園。散歩や食事介助等をしてくださいました。☆民生委員の皆さんが草刈りをしてくださいました。

9月 ☆相良中体育大会にご招待。福祉交流種目に参加、多くの声援を受け、楽しく走る事が出来ました。☆牧之原市より建物の修繕、トイレの改装等をしていただきました。

10月 ☆島田法人会相良支部の皆様が窓ふきをしてくださいました。☆つくし合同運動会、美咲さんの終わりの言葉、可愛い声でしっかりと一言えたね。